

平成 29 年度「特別支援教育に関する実践研究事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」
成果報告書

受託団体名

千葉県教育委員会

I 概要

1 モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
千葉県教育委員会	特別支援学校	知的障害	千葉県立夷隅特別支援学校

2 研究課題

キャリア教育に係わる各教科間の関連性や、校内における各学部間のつながり、家庭・地域や産業現場との連携の在り方などについて検討し、小学部段階から連続したキャリア教育を推進するための教育課程の編成や指導方法等を明らかにする。

3 研究の概要

- (1) キャリアの視点を取り入れた学習活動の工夫
- ・校務分掌組織を中心としたキャリア発達を促すための学習活動の検討と小学部段階から高等部段階に至る系統性の整理
 - ・キャリア教育に係わる各教科間の関連性の整理
 - ・キャリアの視点を意識した授業実践
- (2) 教員のキャリア教育に関する意識と共通理解
- ・講師を招聘したキャリア教育研修の実施
 - ・校務分掌会議を活用した教員間の意見交換
 - ・キャリア教育に対する意識調査（アンケート）の実施
- (3) 先進校等視察
- ・キャリア発達の視点を意識した授業改善や評価の工夫等の情報収集

4 研究の成果

- (1) キャリアの視点を取り入れた学習活動の工夫について
- ・校務分掌会議等で検討した取組を「キャリアの視点を取り入れた学習活動の工夫」としてまとめ、小学部から高等部までの各学齢期に応じた学習活動を「各学部と連携・継続した支援」として冊子に整理することができた。
 - ・キャリア教育に係わる各教科間の関連性が明らかになり、様々な分掌との連携を図る必要性を再認識することができた。
 - ・キャリアの視点を意識した学習活動に取り組み始め、外部講師を招いて2回の授業研究会を行った。キャリアの視点での授業のあり方について指導助言を受け、改善に役立てることができた。
- (2) 教員のキャリア教育に関する意識と共通理解

- ・講師を招聘したキャリア教育研修を2回実施し、キャリア教育に関する知識を深めることができた。
- ・校務分掌会議を中心に検討を進めたことで、各学部の立場から意見交換をし、教員一人一人がキャリア教育について考える機会となった。
- ・年度初めと年度末に実施した校内職員へのキャリア教育に対するアンケート調査の比較から、キャリア教育の理解が高まり、意識が向上してきたことがうかがえた。

(3) 先進校等視察

- ・小学部から高等部までの系統性を意識した特色ある取組は、学部間のつながりや小学部段階から連続したキャリア教育を推進していく上で参考になった。

5 課題と今後の方策

(1) キャリアの視点に立った学習活動の具体化について

小学部段階から高等部段階に至る学習内容を教育課程に反映させ、具体化し実践していく必要がある。実践にあたっては「各学部と連携・継続した支援」を活用し、他教科・領域との関連を意識した実践をすると共に、児童生徒の個に応じたねらいや手立てを明確にして取り組んでいく。児童生徒と教員それぞれが「なぜ（目的）、何を（対象）、どのように（方法）」を明確にした授業の工夫を行うことにより、児童生徒の主体的な学びとキャリア発達を促す。

(2) 評価方法の検討について

教員が実践を振り返る評価方法と合わせ、児童生徒それぞれの評価方法を検討し、主体的な学びが展開できるようにしていく。児童生徒の評価方法については、学習活動を振り返り、言語化や対話を通して活動や自己に対する「意味付け」や「価値付け」ができるようにする。教員が実践を振り返る評価方法を工夫し、1時間の授業を改善するだけでなく、単元や題材のまとまりを見通した授業改善につなげる。